

自然保育推進事業 活動報告書について

1、団体名 さくらの杜SKY保育園

2、令和5年度の活動概要

本園は、街中に位置するため、子どもたちが遊べる自然環境がなかった。そこで、令和3年7月に安佐北区白木町三田地区に「さくらの杜白木」（自然体験施設）を開設し、子どもたちが気軽に自然体験できるような環境を整えた。この「さくらの杜白木」に出掛け自然に触れながら様々な体験をした。はじめのうちは、何をしたらいいかわからない様子の子どもたちだったが、経験を重ねていくうちに自分たちの遊びを見つけたり遊びを作ったりしはじめた。四季折々の自然の中で遊ぶ経験は子どもたちの心を開放し、主体的に遊ぶ根っこを育てていった。

3、遊びの事例

【春】



”春みつけ”。春をみつけにさくらの杜白木へ出掛けた。新緑の色がとてもキレイだ。食べることのできる新芽や若葉を子どもたちと摘んで天ぷらにして食べた。また、草花を使ってままごとを楽しんだり、冬眠から覚めたカエルに出会ったりして春を楽しんだ。田植えの体験をさせてもらい、お米ができるのを楽しみにした。初年度は色々なことにためらうことが多かったが、二年目にもなってくると昨年の経験を思い出し、遊びの中に取り入れ、発展させていくようになった。

【夏】

畑の活動では、サツマイモの植え付けを楽しんだ。雨上がりには、泥遊びに夢中になり、水の張った田んぼではたくさんのオタマジャクシを捕まえた。

暑い日には、水路の水をせき止めてダムを作りそこで水遊びをしたり、葉っぱなどを流して競争して遊んだ。河原の浅瀬で生き物を見つけたり、水遊びも楽しんだ。山の中が涼しく、探検や木登り、セミの抜け殻見つけが盛り上がった。



【秋】



虫たちが大きくなり、子どもたちが虫捕りに夢中になった。大きなバッタやコオロギを捕まえ、虫かごいっぱいにした。その後飼育にも挑戦し、観察も楽しんだ。稲刈り体験からのおにぎりづくり、サツマイモ堀りからのすくもでの焼き芋など、自然体験と食育を並行して楽しむことが出来た。

【冬】

冬場は生き物も落ち着き、山遊びや探検も充実した。山の中の枯れ枝や枯れ木を拾い出し子どもたちと一緒に遊びながらフィールドを整えていった。持ち出した枯れ木で焚火を楽しみ、昼ご飯はその焚火で炊いてご飯を食べた。自分達で米を研ぎ、火を起こして作ったご飯は美味しかったようで何度もおかわりをして食べた。「自分で食べるご飯を作る経験」を重ねていくことで子どもたちのおおきな自信になった。山遊びをたくさんしていく中で子どもたちの足腰もしっかりしてきたことを実感した。



4、今後に向けて

保育者が自分たちから進んで保育の中に自然を取り入れ、今以上に自然の中で遊ぶ楽しさを経験していけるよう研修を重ねていく必要がある。保育者が楽しんで自然に関わる姿が子どもたちをより自然保育に引き込んでいくことにもつながると考える。自然と食育をつなげていくことが子どもたちの自信につながることを実感したので、継続的に経験できるように計画していく。保護者に対して、自然保育の楽しさや魅力を伝えていくことと同時に、自然の怖さを正しく伝えていくことにも注力し、安心・安全の中で自然保育に取り組んでいきたい。保護者の方を巻き込んだ取り組みも計画していきたい。